海の海から

白浜で出会った生きものたち

33

京都大学助教授　久保田　信（京都大学瀬戸臨海実験所）

海面滑走する淡水性アメンボワ

アメンボは池や水たまり、渓流などの水面をすいすいと滑走するおなじみの昆虫だが、3月29日、白浜町の瀬戸漁港で合計22個体ものアメンボが群れて滑走しているのを目撃した。

瀬戸漁港では過去5年間に8例、淡水性アメンボが泳いでいるのに遭遇している。これまで単独滑走（4回）あるいはペア1対（3回）だけだったのに対し、今回は集団だったので驚いた。

この日はなぎで、波浪や風で瀬戸漁港内に吹き寄せられたわけでもない。アメンボの繁殖期に入っているとはいえ、卵が育たない海水に集合した理由は分からない。産卵期にしばしば見受けられるアメンボ同士の「おんぶ」行動も見られなかった。

アメンボという名前の由来は、つかまえて小瓶などにいれておいをかぐと、飴（あめ）のようだというので名付けられたようだ。実際にかいでみても、食欲をそそる飴のにおいはしないので、その真偽は定かではない。

細長い胴体を水面から浮かせ、くの字形の長い2対目の足先で水をかいて軽快に進む。後足はかじとり役のためか中足よりも短い。前足はもっと短く目立たないが、餌捕り用で触覚のそばに添えて獲物を待ち伏せている。

アメンボは目も良いが、足先で獲物の振動を感じ取って忍び寄る。水面に落ちた昆虫類にとがった口を突き刺して消化液を注入し、筋肉や内臓を溶かして体液を吸いつくす。その様子はハエなどを水面に投げ込むと簡単に観察することができる。さながら『小さなバンパイア』だ。普段はおぼれかけた虫を食用にしているが、餌が少ないと共食いすることもある。

過去5年間で、瀬戸漁港への出現時期は春から初夏の3～6月で、1回だけ秋（10月）に出現しているが、厳冬や真夏に姿を見ることはない。

早春に姿を見せたアメンボの成虫は交尾、産卵を終えれば死んでしまう。ふ化した幼虫が成長して、秋になると再び成虫が見られるようになり、冬を迎えると成虫のまま水辺の落ち葉の下などで越冬して春を待つ、という生活史に関係している。

体液すする『バンパイア』

今回は面白い行動も目撃した。アメンボが海面を移動中、複数の小魚が襲ってきたのだ。しかし、まるで忍者が手裏剣の攻撃を避けるように「ホップ、ステップ、ジャンプ」を繰り返しながら見事にかわして逃げていった。

また、しばらく瀬戸漁港で腰を据えて観察していると、アメンボはフワリと飛行して大空高く舞い上がっていった。アメンボの飛行に巡り合うことは非常に珍しく、わが人生でも3度目という貴重な遭遇だった。これまでアメンボの飛行に遭遇したのは、上富田町南紀の台と北海道厚岸町愛冠岬だけ。

珍しい滑走例や行動、飛行などは、南紀生物同好会会報「くろしお」の19号と20号に掲載してきたが、今回遭遇した集団滑走の例を中心に未報告データをまとめて昆虫同好会会誌「KINOKUNI」65号に掲載予定だ。

近年、中性洗剤による池沼の汚染が叫ばれている。アメンボにとっても死活問題になっている。洗剤の成分によって水面に浮かぶための足先の密生した毛の中まで水が染み込んでしまうためだ。水に浮く『水遁（すいとん）の術』が使えなくなり、うまく飛べないとおぼれてしまうこともある。アメンボは生まれたてのときは、羽も発達しておらず飛べないので、さらに汚染が進むと絶滅に追い込まれる危険性もある。

世界には60属500種余りものアメンボ類が記載されているが、日本では6属22種ほどしか知られていない。

ほとんどが淡水性だが、中には沿岸沖合に暮らすウミアメンボ類という変わり者がいる。体長はわずか5ミリほどの小さな体で、肉眼で発見しづらい。体形は陸上にいるアメンボと同じだ。ウミアメンボ類は海洋で動物の死がいをあさっている。生活史についてはほとんど分かっていない。これまで、研究航海中に南西諸島の沖合の海表面をプランクトンネットを引いた時に取ったこともあったが、あまりの小ささに写真撮影はできていない。

一方、海洋性のケシウミアメンボの体長は1・5～2・4ミリとさらに小さい。一見するとアメンボに似ているが、科が異なる。オスは小型で卵形、メスはオスよりひとまわり大きく丸みを帯びたひし形をしている。体色は黒く無翅（むし）で、体表面にはビロード状の微毛が密生している。比較的波の穏やかな内湾で採集されることが多く、潮流の影響を受けにくいようだ。国内では本州、四国から南西諸島の黒潮流域や瀬戸内海に面する自然海岸の岩礁帯付近に広く分布している。護岸工事などによって生息環境の悪化が心配されており、山口県などではレッドデータブックの準絶滅危ぐ種に指定され保護されている。

瀬戸漁港の最奥部の海面（水深数㌢以内）を滑走するアメンボ

瀬戸漁港の海水面を滑走するアメンボ（海底の船揚場に写る4つの丸い影はアメンボの『水遁の術』の秘密を現している）

瀬戸漁港で目撃したアメンボ	
年月日	個体数
00・4・10	2
00・6・15	1
00・6・30	1
01・3・22	2
01・3・22	1
01・4・8	2
01・10・11	1
04・3・29	22

ウミアメンボ類の1種（上）とケシウミアメンボ（久保田信助教授作）